

ひろっば



Vol. 399

社会医療法人近森会

10

病院間相互訪問 (医療安全委員会) 山本哲史	3
近森病院整形外科へ研修に 塚本賢也	4
近森献血キャンペーン	5
ちかもり3世代・孫の日	6
第2回 近森会グループ学術集会	8

目次

www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目1-16 tel. 088-822-5231
発行●2019年9月25日 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦



「ひろっば講座」1年のご報告

診療支援部 部長 兼 企画課長 山崎 啓嗣



昨年始まった「ひろっば講座」は、9月で1年になります。県民、市民向けの無料講座として各部署の講師(専門職)が県内あちらこちらに出向いてくれています。これまでの活動状況を少しご報告いたします。

1. 講座を実施した地域

高知市から始まり、現在は周辺地域を含め15市町村まで広がっています。地域によっては山の中腹にある集会所や公民館など道幅が狭く、軽四でなければ進めないような場所にもお邪魔しています。

また依頼元は、高齢者クラブの皆さんが集まる生涯学習の場が多いのですが、企業が社員研修の中でストレスへの対応や禁煙といったテーマを選ばれる場合もあります。小学校の保護者の皆さんからは、「あなたもできる救命活動! (実技編)」を受講いただくなど、それぞれ身近な話題やもしもに備えた内容を選ばれています。

3. 人気講座

- 1** **誤嚥性肺炎の予防…11回**
井上浩明(日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士)
矢澤展子(摂食・嚥下障害看護認定看護師)
- 2** **認知症をもう少し知りませんか?…10回**
萩原博(精神科認定看護師)
- 3** **老いとのつきあい方…9回**
岡本充子(老人看護専門看護師)
- 4** **認知症の方とのつきあい方…7回**
萩原博(精神科認定看護師)
- 4** **どうして転ぶの?~自宅での生活を続けるために~…7回**
影山美佳(転倒予防指導士)
- 4** **今日から始める生活の中での筋力アップ…7回**
田村美穂(作業療法科長)



2. 受講者数

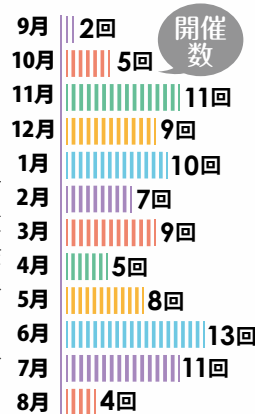
お申し込みは月によって変動していますが切れ目なく頂戴しており、これまでの開催数は計94回、のべ3,707人の皆さんに受講いただきました。平均すると20~30人のグループが多いようですが、100人を超える規模(最大受講者数:400名)もあります。講座というより講演会のようなイメージですが、「少しでも多くの方に」、「少しでもわかりやすく」を意識して講師は奔走してくれています。

4. 各講師からの報告

講座終了後、講師は簡単な報告書を提出してくれます。「今回の会場は道が狭く乗用車は無理。」だとか、「入口からすぐに階段を昇るがスクリーンを持つては厳しい。」とか、「講座終了後、お菓子の質問があり〇〇と回答」など様々です。中には、講座開始時刻より早めに着いたため、一緒にマジックショーを見せていただいたなど微笑ましい内容もあります。

他にも「どうしても」と昼食のお誘いを受け、田舎寿司や郷土料理をご馳走になったとか、手作りのマグネットクリップ(しかも近森会グループのロゴマーク入り)をいただいたなど書き出せばきりがありません。なによりも驚いたのは、チラシの間に一万円がそっと挟まれていたというもので。ひろっば講座は一切お金を受け取っていませんので速やかにお返ししましたが、受講者は皆さんとても律儀な方で講座も本当に熱心に聞いてくださっているようです。

講師もこれに応えるように、外出先から戻ると「次は話す順番を変えてみる。」「もっと目立つ色にする。」「クイズ形式にして集中が途切れないようにしてみる。」など、回を重ねるたびに改良を加えてくれており、その熱心な姿をみると本当に頭の下がる思いです。



3,707人

ひろっば講座は始まってわずか1年ですが、既に100回近く開催されています。勤務時間中に職場を離れ、これだけ多くの地域を訪問できるのはそれを埋めてくれる周りのスタッフの理解と協力があるからこそだとつくづく感じます。単に回数が多いのが良いわけではありませんが、回数の多さだけ近森会グループのチーム力の高さを感じますし、地域のお役に立てているなあと思います。次は「5年のご報告」が出来るようしっかり支援していきたく思います。 やまさき ひろつぐ



回復期リハビリテーション病棟で寄り添う看護をしたい

近森リハビリテーション病院
4階病棟西 看護師 濱田 温子

私は急性期病院の脳神経外科・SCU病棟で5年勤務した後、今年4月より当院の回復期リハビリテーション病棟で勤務しています。以前の急性期病院は救急医療に特化しており、重症化の予防や生活機能低下

を防ぐ看護をしていました。現在は脳卒中などを発症された患者さんが障害を持ちながらも、その人らしく生活が送れるよう、また早期に在宅復帰ができるよう日々看護をしています。

当院にきて思ったことは、患者さんと関わる時間を長く持つことができるということです。回復期では、患者さんは心身のバランスを崩しやすい時期にあります。患者さんの入院生活の中で少しの体調の変化や心の変化も見逃さず、時間をかけて寄り添うことができるのは回復期の魅力であると感じています。車椅子で生活していた患者さんが杖で歩けるようになったり、口から食べることが難しかった患者さんが食べることができるようになるなど、患者さんとご家族と共に喜びを感じる機会が



たくさんあります。

また当院では他職種との関わりも多く、専門的な知識を持って、多方面から患者さんへアプローチをすることができます。それらのたくさんの関わりが患者さんが安心して生活を送るための一歩に繋がっていると思えた時に仕事のやりがいを感じます。

今後も喜びを共に感じることができるよう、自己研鑽に励み、スタッフと一緒に看護をしていきたいとします。 はまだ あつこ

10月の歳時記

キンモクセイ

訪問看護ステーションラポール
ちかもり 看護師 林 未来

訪問に行っている途中で、キンモクセイの甘い香りがすると一気に秋が来たなと感じます。



花言葉は謙虚・謙遜、気高い人、真実で、小さな花の様子や香りが由来となっています。

開花時期は9月中旬から10月下旬で、開花期間は一週間ほどと短いため、キンモクセイの香りがしたら是非甘い香りを楽しんでみてください。

はやし みく



● 近森看護学校通信 36 ●

2020年度入学生募集のお知らせ

今年の4月に5期生を迎え半年がたちました。いきいきと勉学や課外活動に励む学生の姿をみて、日々の成長を感じるこの頃です。

さて近森病院附属看護学校では2020年度の入学試験を下記の日程で行います。昨年度からは、社会人

を対象とした社会人入学試験も始まり、より幅広い年齢の学生を受け入れる体制も整いました。

看護師を目指すお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひご案内いただければと思います。

2020年度の入学試験について

	出願期間	試験日	募集人員
推薦入試	2019年9月17日(火)～9月30日(月)	10月12日(土)	10名
社会人入試			10名
一般入試(一次)	2019年11月11日(月)～11月25日(月)	12月7日(土)	20名
一般入試(二次)	2020年1月14日(火)～1月27日(月)	2月8日(土)	若干名

※募集の詳細につきましては、

本校のホームページまたは事務局までお問い合わせください。

【お問合せ先】TEL 088-871-7582 (代) 近森病院附属看護学校 事務局

画像診断部を中心に安全管理対策の評価

近森病院医療安全専従
看護師長 影山 美佳



8月23日に、高知医療センター、高知赤十字病院、リハビリテーション病院すこやかな杜の医療安全担当者等をお迎えして、当院の医療安全

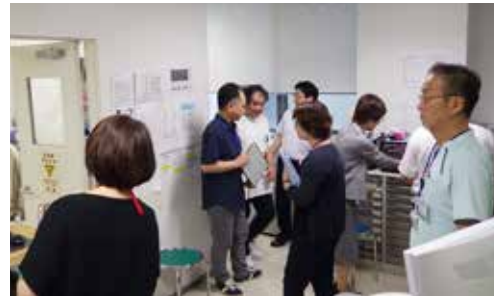
管理を確認していただきました。今年、昨年度の課題の改善状況に加え、画像診断部を中心に、安全管理のための対策について評価して

いただきました。さらに、それぞれの病院の取り組みについて、意見交換を行ない有意義な相互訪問となりました。 かげやま みか



▲部署訪問前にチェックシートをもとに意見交換。今回の中心である診療放射線技師をはじめ、医師、看護師の皆さんと。

部署写真は画像診断部での取り組み紹介と意見交換の様子。また、院内をラウンドし、患者さん視点で環境が整えられているかなどの気づきも頂戴した。



私の趣味

休日の女子会もどき

近森病院本館6階B病棟
看護師 三好 香穂



私の趣味は、休日に高知県内にあるカフェを巡り、そこで食べた物やお店の内装・外観を写真に残しアルバムを作ることです。今まで沢山のカフェに行きましたが、その半分以上は祖母を誘い、“年齢差53歳の女子会”を楽しんでいます。

多忙な両親の代わりに幼い頃から祖父母と過ごす時間が多く、おじちゃんっ子・おばあちゃんっ子でした。大好きだった祖父は私が8歳の時に亡くなりましたが、祖父に果たせなかった感謝の気持ちも込めて、美味しいモノ好きな祖母を連れてカ

フェでのんびり過ごすことが趣味の一つであり、リフレッシュできる時間の一つとなっています。私が誘うと意気揚々とお供してくれるので、きっと祖母にとっても楽しみな時間の一つになっていると思います。

昨年病気を患い、手術後はしばらく食も細くなって心配していましたが、最近是一緒に食べに行っても、私より多い量を平気で食べるほど元気になり安心しています。もうすぐ80歳になりますが、これからも色々な所へ連れ出し、美味しいモノと一緒に食べ、100歳まで長生きしてもらいたいと思っています。

みよし かほ



▼筆者左、衣笠統括部長と

北海道から研修へきました

医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院
整形外科専攻医 塚本 賢世

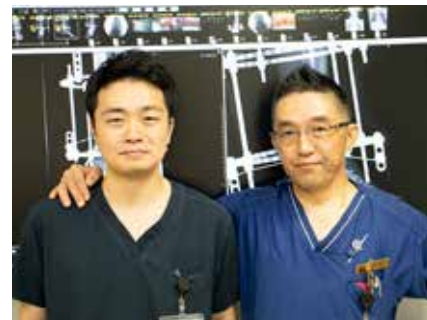
北海道の手稲溪仁会病院から院外研修で来ました整形外科専攻医の塚本賢世と申します。3カ月の研修のうち2カ月があっという間に流れていき、残りもあと1カ月になってしまいました。

自分がいた病院との様々な違いに戸惑いを覚えながらも、整形外科の研修病院として国内屈指の近森病院で研修することができ、手術・病棟・救急対応と忙しい日々ですが、毎日があたいへん勉強になっております。

一人ひとりの患者さんのその後の

一生の機能予後を考慮して、時間をかけながら完璧な手術となるよう、日々取り組んでいく姿勢が整形外科全体に浸透しており、自分が整形外科医として今後一生持ち続けなければならないものを再認識することができ、身が引き締まる思いです。

日々の業務以外にも高知では美味しい食事、地産の魚介、肉、野菜、日本酒、焼酎と、なにを食べても飲んでも美味しく、元々自炊するのが好きでしたが、今ではほぼ毎日外食になってしまいました。また、よさ



こいではエネルギーで一体感溢れる踊りを見ることができ、元気をもらいました。

素晴らしい研修環境、美味しい食事とお酒、おおらかで優しい高知の人々……、すっかり高知が気に入ってしまい、あと1カ月かと思うと寂しい限りで、また将来的に來たいなと思っております。

つかもと けんせい

第17回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会

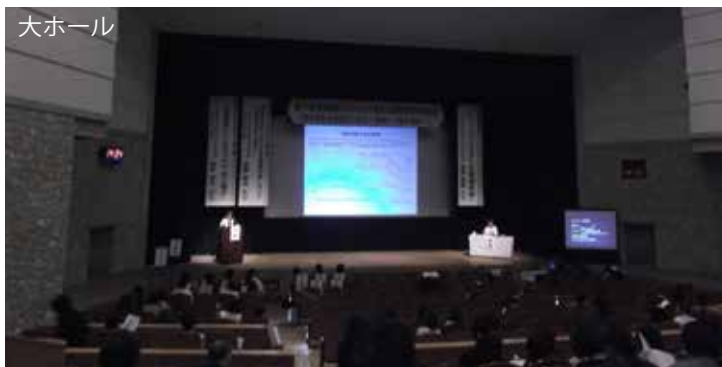
2019年8月25日



第17回日本医療マネジメント学会 高知県支部学術集会 参加報告

今年は看護師2名、作業療法士1名、診療放射線技師1名、管理部事務1名の合計5名がそれぞれ口演発表を行いました。その他の参加者も

高知県下で他病院の取り組みを多く知り、意見交換も行うなど充実した経験をしました。



大ホール



小ホール

お弁当拝見 76 今日は誰が作ったの？



近森オルソリハビリテーション病院
理学療法士 安並 大地

私は実家暮らしで、お弁当は毎日、父、私、弟の3人分を父、母、私の誰が作るか決まっています。朝一番に起きた人が作り始め、他の人は起きたら手伝います。

メニューは冷蔵庫にある食材でその時の気分により変わるので朝にならないと分かりません。ですが、誰が作っても卵、肉または魚、野菜を極力入れるようにし、できるだけ冷凍食品は



使わないようにしています。

毎日、微妙に味が変わるので飽きることなくいつも満足です。

やすなみ だいち

近森献血キャンペーン



9月12日近森病院本館受付前にて献血キャンペーンを行いました。お忙しいなか、職員、一般の方含め57名の方にご協力いただきました。ありがとうございます。中には血液の血色素が足りず、献血できなかった方もいらっしゃいました。夏のお疲れが出てきているのかも？ぜひご自身の体調を大切に、次は元気にお越し頂けると嬉しいです。

リレー エッセイ

念願の！自宅でピザ!?

近森病院北館4階病棟
看護師 徳橋 麻紀



自宅を楽しむため花を植え、野菜作りと庭周りの充実を計画し、耕したり草を刈ったりむしったりしている夫を横目に、日々の家事に追われ(笑)、大した手伝いもせず過ぎていた我が家の庭に作成されたピザ窯！

庭を整地してコンクリ用の木枠を作り、またもや協力することなく着々と進められましたが、遂に…ほんの少しだけコンクリートを混ぜる際にお水を入れるという単純作業のみのお手伝いがありました。コンクリートという物がこういう風に混ぜられ作られるということが私には新鮮でした。木枠に流し込み土台が出来、耐火煉瓦を積み上げていく。地道に黙々と1人で作業をしてくれた夫にはただひたすら感謝です。

さて、初めてのピザは市販のピザ

台を使っでの作成で、3種類のピザを焼かすまで満足。2回目以降は色々試行錯誤をしながら作成しているものまだまだ夫も家族もお気に召すピザ台ができず頭を悩ましています。

味はトマトソースのマルゲリータ、シーフードのグラタン風ホワイトソース、照り焼きチキンに乗せた照り焼きソース味と3種類を作り具はその都度変えていますが、やはりこども達には甘辛い照り焼きが1番人気の様です。

暑い中火を起こし、火の番をしながらピザを焼く夫は職人の様でこども達からの人気もうなぎ上りで、熱中症に注意しながら楽しくおうちピザパーティーを続けたいと思います。

次こそは夫やこども達も満足するピザ台を作る事が出来ればいなあと想っています。

とくはし まき



ハッスル研修医

将来のために



初期研修医 柴田 純季

高知県で生活を始めて7年目になりました。

学生を卒業し、医師になって新しい生活に少し慣れてきましたが、毎日のように、できないことや新しいことにぶつかりながら過ごしています。

私は、いろんな人たちから感謝される医師になりたいと思っています。

そのために多くの経験が必要だと思い、近森病院で働くことになりました。研修を始めてまだ数カ月ですが、医療のことはもちろんのこと、人間関係を含めた社会人としても成長させていただいています。

一緒に働く先生方はもちろんのこと、コメディカルの方々も優しく時に厳しく接して下さり、自分の未熟さを痛感しています。私は、同じ間違いを繰り返さないよう日々精進することが将来のためになると信じています。

しかし実際は同じ間違いを繰り返してしまうことも多々あり反省を繰り返す日々ですが、自分のなりたい医師像に向かってこれからも努力を怠らず後悔のない研修を送りたいと思います。

しばた じゅんき

チカモリ・シネマクラブ

ニューフェイス

- ①所属②出身地③最終出身校
④自己アピールなど



ますだ しん①整形外科
医師②岡山県③岡山大学
④高知での勤務は初めて
ですが、よろしくお願
いします。

増田 真

人の動き 敬称略

10月19日は孫の日 「丁野ご一家」

なんと、ちかもり3世代！

ちかもり3世代の丁野ご一家をご
紹介。1世代目（美也子さん）と2
世代目（倫美さん）は、ともに近森
会グループで看護師として働いて
います。そして3世代目は現在は保育
室そるとを巣立ったかわいい盛りの
姉妹。

ちなみにこの写真を撮影してくれ
たのは倫美さんのお姉さんの真奈美
さん。同じく近森会グループで看護
師として働いています。



何でもフリーコーナー

我が家のペット自慢

看護部キャリア開発課

看護師長 萩原 博

産まれたときは掌に乗るほど小さ
かったメリーさん、あれから13年、
人間でいうと100歳のおじいちゃん。
いつまでも変わらず、我が家の癒し
です。

はぎわら ひろし



◀ 100歳
▼ 1歳



おめでとう

2019年8月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	17,905人
新入院患者数	1,054人
退院患者数	1,080人

近森病院（急性期）

平均在院日数	13.21日
地域医療支援病院紹介率	77.36%
地域医療支援病院逆紹介率	290.95%
救急車搬入件数	601件
うち入院件数	327件
手術件数	471件
うち手術室実施	318件
うち全身麻酔件数	198件

● 2019年8月 県外出張件数 ●
件数 29件 延べ人数 49名

編集室通信

1993年5月23日、3年越しの企画が
実って近森会鯉のぼり運動会が開催され
た。パン食い競争やうれしはずかし二人
三脚、歯を食いしばっての綱引きが続き、
初優勝の栄冠は外科系チームが射しめて
いる。以後26回開催されたが、今年で
職員運動会は中止となった。あの頃とは
人も時代も変わってしまった。やはり寂
しい。

年寄りのたわごと

ブレずに目指してきた ER です！

和を尊び皆で頑張るバレー

小3から高3までの10年、バレーボールをずっと続けた。「協調性を学べる球技」として、戦後まもなくから体育の授業にもあったチームスポーツが、祐弥さんは「すごく好きだった」。きっかけは、その日、始めるつもりだった野球がたまたま練習がなくて、近所のお兄ちゃんにバレーに行こうと誘ってもらったためだった。それならばと軽い気持ちでついて行き、「遊びの延長気分」は楽しかった。

力でねじ伏せるとか、相手の裏をかくとかよりも、「和」が尊ばれる球技。これが結局は、将来の進路を考えた高校時代、看護師を望んだ祐弥さんの今日につながることになったのだろう。

バレーは和を尊ぶが、皆で仲良く楽しくばかりではなかった。が、一緒に頑張り支え合える仲間がいることで、しんどいことも切り抜けられた。祐弥さんは、「きれい過ぎる話かもしれませんが、仲間と支え合えるのは頑張る素になると思いました」とニコリ。

バレーのポジションは、アタッカーにトスを上げる「セッター」ひとすじ。このポジションが大好きなのだ。「試合の流れを見て展開を考える。司令塔として試合を作れる」。支える側の役割の魅力ということだろう。

できるなら大学でもバレーを続け、「実業団を目指したかったけれど、身長が…」。十数センチの差が進路を左右したけれど、「資格は強み。バレーを諦める以上は…」と探した結果、高知学園短期大学に看護学部ができたことは知っていたし、バレーの関係で仲良しの先輩が進学もしていた。

人とのつながりもあり、楽しみながら資格を取れ、専門以外の一般教養も勉強できる。理想的！と思えた。

こうして、順調に進んできた。

では、どうして救急をやると思う

たのか。

「ガツンと最初に苦労！」

「看護師やるならガツンと最初に苦労を知っておく」。学短の3年間ブレなかったこの救急への一途さを祐弥さんはちょっと気に入ってもいる様子。

将来は地元高知へ戻りたいが、まずは県外へ出て、入職時研修もしっかりしていると聞いた兵庫医科大学病院の救急部門を希望。一年目、救急外来への配属はないが、希望通り救急のICU部門に配属された。次に救急の病棟を経験し、救急外来まで務められたら、救急ナースとして一人前。職場の先輩にこう教えられ、4年間、兵庫で経験を積んだのち、近森病院ERを熱望。近森ERで3年目に入っている。近森病院に入職したかったのは、兵庫時代から近森の症例の多さは知っていたし、「ガツンと最初に苦労！」を、やはり貫きたかったためもある。

いまは「希望通り、近森ERで務められて、本当に嬉しいんです」と、その満足感や幸せオーラを発しているのだろう。

やる気が出る職場風土

直属の町田師長は、「まじめ。一所懸命。だからといって、肩に力を入れすぎかという、適当に力も抜けているようだし、外傷その他研修にも熱心。期待される人間像を目指し、とりあえずしっかりやれているのでは」と話してくれた。頑張りすぎてポキッと折れるような危うさも見えないようだ。

ちょっとした患者対応への気づきなど、兵庫時代の経験を元に提案すると、それを活かそうしてもらえ職場風土も、やる気が出る素になってもいる



▲苦労に勝るやり甲斐がERの魅力です

▼ストレス発散・充電重要ツール、二度目のタイ旅行。想像以上に背中中は高くて広かった



ようだ。

リラックスのコツは、「一年に一度の海外旅行のコースを探しつつ、目の前の課題をつぶすこと」。さらに一点、キャンプなど、海外ほど大げさではなくて、手近の発散材料を見つけ、実際に「動く」こと。

患者さんのいちばん近くに居るのが看護師なのだから、医師にも諸先輩にも同僚にも、もちろんご家族最優先で、「とにかく患者さんの思っているであろうことを、できるだけ的確につなげたいと思っています！」。

これがバレーボールのセッターとして周りを支え、高校時代二年連続出場した国体選手でもあった祐弥さんの「本領発揮」ということなのだろう。

第2回 近森会グループ学術集会 2019 開催報告 2019年8月31日 (土) 13:00~17:00

大会長

人材育成委員会 委員長 川井 和哉

よりしなやかなチーム医療の実践に向けて



2019年8月31日、第二回近森会グループ学術集会が開催されました。各部署から先進的な取り組みや連携など、臨床現場での活動について25演題が発表されました。活発な質疑応答を通じ、普段関わりの少ない部署の活動なども知る良い機会になりました。多くの職種がお互いに刺激を受け、理解が深まり全職員の一体感が生まれました。

どの演題もよく準備されており、一般の学会でも通用するレベルの発表でした。特に優秀演題の5題は、独創性、論理的な展開、プレゼンテーションなど素晴らしい発表ばかりで、大変勉強になりました。最優秀演題賞とオーディエンス賞は、消化器内科の高松正宏先生がダブル受賞されました。

特別講演は近森理事長からリハと栄養に焦点を当て、当院の「チーム医療の理論と実践」についてわかりやすく話していただきました。今日の医療を

取り巻く環境は厳しく、診療報酬の改定、消費税増税、医療従事者の地域偏在、働き方改革など問題は山積しています。AIの進歩は著しく、我々の仕事内容も大きく変化していくでしょう。

しかし、どのような時代になろうとも、医療は個々の能力とチーム力が重要です。学術集会を通じ、学術的なレベルアップとともに各職種の相互理解が深まり、よりしなやかなチーム医療が実践できることを期待しています。

かわい かずや



ポスター発表 5 演題



口演発表 20 演題

優秀賞受賞者 ★最優秀 ◆オーディエンス賞 ダブル受賞

	優 秀 演 題	所 属	演 者
優-1	病棟看護師の災害への知識向上に向けての取り組み	救命救急病棟 看護師	上山佳織さん
優-2	当院における Fitz-Hugh-Curtis 症候群 (FHCS) 症例の検討 —腹部造影 CT と尿中抗原検査の有用性を検証する—	初期研修医	岡本莉奈さん
優-3	臍頭十二指腸切除術後の摂取栄養量と術後の体組成変化の関連 および退院後の経時的な体組成評価の有用性	臨床栄養部 管理栄養士	田部大樹さん
優-4	当院における睡眠導入薬の処方推移	薬剤部 薬剤師	岡林真由さん
★ ◆ 優-5	胆管結石・胆管炎症例における DPC 入院日数についての調査結果 —平均入院日数短縮のために何ができるのか—	消化器内科 医師	高松正宏さん



▲特別講演 高齢社会におけるリハビリテーション栄養の使命
～必要な患者すべてに必要なリハ栄養を提供するためのチーム医療を考えてみよう～



▼認定看護師の会ブース



▼栄養補助食品試食会



座長は若手が務めた

